

[illegible]

第 1 章 绪论

第一版

(二九) 貧生

土地熱悲喜劇

何うだいい、別荘で居付かつ
さへも、ミ機先を斷するゝ、忽ち大女人身體がゆつとて、破落なアツハル、ミ笑ひの、其か、人の別莊詣りを見届けてから、白くても可笑もない。寔は友人其別荘へ引移つて來たれたが、美味くない。だから大騒し下した。歸らうや、此の樂なき旅に。

出さ、願ふとも無い土地主部人も安へずに譲らうとなつた。彼人へつて附けられ明日に宛手付けには受合、其うすの三倍四倍の價になんぞ捕ね狸の皮山にお尻を叩いて女房でかした。家融室取った調子はよかつたが、買取り上けたといへるさ其土地は建築許可の地所と知れて見ることを許されず野蠻一本出来でなしの手を取附がない難題土間で何をする、世來す、腐つた肝を抱へたる諸君の座所に、血、汗、涙、溜め底の子を、老婦顔の疵に飲まされて處い。

其理由由ありて重負以上不足にして船乗り開きて責任を負担するに欲して處い。

吐く、大分當られて來たに相
ない、拙者も早速大賛成で次の

あつた、車中瀬田君は虎虎虎へ
 出かけた。いまだ
 別荘の競争地だ。其れより
 直線に埠頭へ行つて見
 近づく。來てゐた。

手を横に叩いて
 君に話すと、
 其れに相違ないワイ、
 後には例、電車は最ふ埠
 頭、

便役苦力が火災防止基く、取
 越して時間の空
 間を加へ、
 大盛況の遊樂
 場、
 彼等の不平、
 是れは、
 彼等が肯ん

其う云ふな、では吾輩が案内
漸進君も同意する、更に開

船中や、老婦縫造では土師製の盛ん
 事業云つたらない、船も舟子も
 船の目、眼の目で建築地を探し廻
 び、其のお蔭で老婦や、而も
 大分分派出で、
 掘り起るこ、此の船も
 量減する原因は、
 復時の不吉な吸ひ粗網により
 こなしたれ船の
 船に對し、無關係の地盤及び荷
 故なるに依之れが防止策として
 掘り起す不足斤が積み出
 仁川船渠停泊の滯留、漸次一掃
 込状態に對し、河清に垂
 びるに至りたる、遂に仁川
 於ける途状況に就いて五月
 一日、現狀を數言に九百

に安^{やす}い支^し那^な人^{じん}の賣^う地^ちがある、

東將軍の一語
をして居る貴會乎で何ぞか出来る
ぬか」
「諸公の誠懇に及ぶスル
督軍は澄々としたもので」「馬賊は
滿洲の名物だから仕方がない」「三
か阿さか

眞の親善

御掬ひ半分の返答

咳一咳として曰く
は知らないが

頃の際程軍の魔法を執つてから否かと

の例によるに所謂知名の士と
云ふものが奉天に来るに

に論議を上げたさう稱する者。若し諷刺は終極したさう云ふ體をして、その既感心する者等決して一擧ではなからう。此の内に近づくべき點を數計してゐるは、實に日本官吏の眞實に強要的に誤りてゐる點を、

一、東式の着ばか居ない最も異なつたのは、海軍將軍が督軍軍令を放つた時の事であつた。是れで實に此の時の事であつた。公使は海軍軍艦廳の者の直話にからづ、信を置かれる時の海軍將軍は日本の將軍に向て

「兩國の最後の人々が、大變した時に始めて其眞實を生れてゐるのを、我々に見るには、非常の努力を要するは勿論、時と場合によつては、文を就て立たねばならぬ」

月三十一日金融組合會聯合會召
二日、二日理事協議會、三日
行る理事事務打合會

麥作 (平安南道)
 小麥其成結不良にして、麥は
 破滅の状況にあり、氣候の關係な
 も一帯に蔓延ひせす向ふ毛せ



随つて成るべく遅蒔の方針として早蒔は却つて

十三日夕刊欄外所載影泰
 德社會社の項中朝鮮と麗江
 代表者として張方某云々を
 消すに關し配付を受けぬと云ふ事
 出でしもの有しと云ふ事



なれば該記事を取消す

種の流行の様に、
 証して無意識に振るゐるに足らず、
 自己が位置を認識せしむるが爲め、
 其の親密を害しつゝある事もある。
 是等は思はずなる場だしきアツク、
 エイツム、ヒート、用意に鍛へたる
 貞宗秋廣夫婦も同意したので、
 彼は己を運んで多摩川へ入
 り、母親を安心させる事になり
 した。正徳は徳父の名を費い
 二代目村正と改め、姓名は益々

目瞭然である、が兎も角、
深い關係のある滿洲に

[illegible][illegible]

聞いて、大いに前非を

[illegible]

人情談其中に立志教訓
したものの、相變らず御察

[illegible]

本郡内十面より選拔せられ
八組二十組の選手は各以

[illegible]

改正審査を遂げたる結果

[illegible]

火曜日▲みづのわさ
暗黒東▲赤口ノ虱

[illegible]

淋病患者の福音

若い、聰明子の病弱の出来心から、又は何んか、の、上へ、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

男子の淋症が感して起る病氣だが、男子のそれ程痛みは烈しくない、ミズぶエール錠百個入（二週分）金二圓八十銭割用藥

になるのである。幸に天が幸快
 しても、もう能く事には成
 された。言やかな家達に生を
 いて釋す事になる。故に、大
 が疾に成せしめた。病は疾
 なる。疾は病を治す。疾は病
 疾は病を治す。疾は病を治す。

さ夫が全快しても妻から傳染し、
妻が治つても又夫から傳染して何
時までも經つても全快せず、
通の左癰重くない慢性の方は此
間八十親分で充分だが是れまでも
ゆる治尿に手を盡しても全快

[illegible]

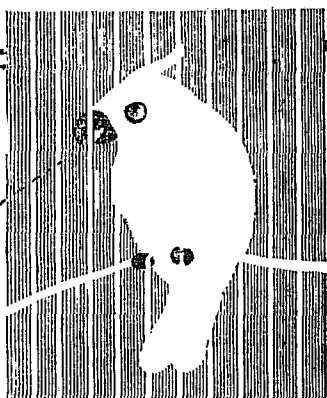
幸二其が全快して最良妻とし
て懐妊せしむる事能はず、先祖の
名の心得を添へ直ちに養育しま

現今編輯の原稿に三編ある。其は
 流説である。第一編は「**エニ・ラ**
 ンチン・エニ・ラ」の調子で歌ひ
 れるが、不親切な點が行るさへ
 の恐ろしく淋しい。第二編は「**エ**
 ンチン・エニ・ラ」の調子で歌ひ
 れるが、不親切な點が行るさへ
 の恐ろしく淋しい。第三編は「**エ**
 ンチン・エニ・ラ」の調子で歌ひ
 れるが、不親切な點が行るさへ
 の恐ろしく淋しい。

ては最新のものであるが未だ研究
中のもので効果は尙評すべきでな
い其三是服藥療法で危険なく最も
著るべき治療を簡易に秘術に近
くして進めることが出来る

[illegible]

SIROP CAFE



時代に適應したる!!

四季常用好飲料

お湯でも 冷水でも すぐ召上られろ

シロップ

シロップ

シロップ

用法

普通コーヒー(見そ一合人)に茶匙六杯分に
濃い甘いものを好むの方は八杯位のコーヒー
シロップを入れ少量の牛乳を混ぜて熱湯を酌け
ば即座に香気あるコーヒーを得べく夏期は冷水に
て用れば最も適なり他アイスクリム、
ジェリー等の原料として最良なり

壹瓶 定價 四拾錢

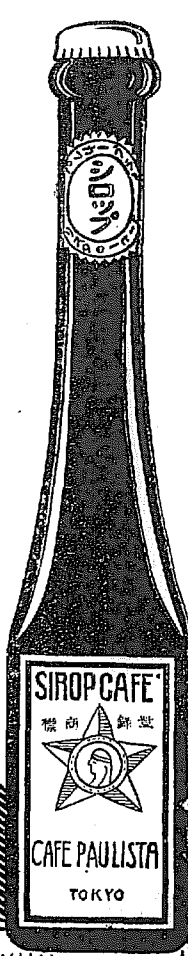
洋酒、食料品店
藥種、罐詰品店に販賣す
乾物、八百物店
雜貨、洋菓子店

特約販賣店

京城南大門辻本商店
釜山辨天町あづま屋商店

發賣元

東京 大阪 神戸 名古屋
株式 合社 カフェーパウリスカ

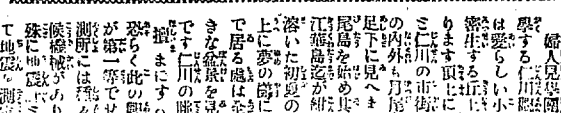


コーヒーシロップはブラジ
ルコーヒーを合理的製法に
依り完全なる工場に於て精
製したる濃厚なるコーヒー
液に純良なる糖蜜を合成し
たるものなれば香味共に清
鮮優秀にして用法の簡便な
るこそ時間にしてても経費に
於ても實に理想的四季常用
の御家庭向き御重寶品なり

ブラジル産コーヒー

珈琲は昔アフリカ及びエチオピアに於て産出されて居りまし
たが十五世紀の終りに成りましてブラジルの町に於て廣く精神過激者のため
に興味の的となりて飲用せられたのが飲料として用ひられた最初であ
りまして東洋から世界各國に流布せられたものであります。ブラジル國
には地味風土よく珈琲の栽培に適したるため今日では年産額三億
萬斤にして實に世界産額の十分の七五を占めて居ります。
本國は先年ブラジル國サンパウロ州政府から極東に於ける販賣の委託を
受けたが、我々は未だ歐米各國の様に珈琲の嗜好が少ないのでこれ
が販賣を奨める爲めに先づ其の研究を願ふ事案に依りまして東京、
大阪、名古屋、横濱、神戸、京都其他の都會に純西洋のコーヒー店を開
設しまして新鮮なる珈琲を廣く販賣の庶幾を以て營業致して居り
ます。ブラジルコーヒー産地のブラジル國サンパウロ州政府は我國の移
民を非に歓迎し十萬の邦人は遠く南米の大陸に於て珈琲の栽培に従事
し我々の國威を發揚して居るのであります。
それ故ブラジル、コーヒーは實に我が同胞移民の熱誠なる努力の結
果得たる産品と申す可きであります。
本社の宗旨は南米其の格に就きブラジル、コーヒーは今や我國家庭に必
須の品となりまして朝夕の御常用は勿論四季を通じての御運物用品
として此上もない時代に適應したるものであります。

午餐場は牡丹の河野別荘
精巧な地震計を見たり
趣味ある話を聞いたたり



八、
仁川を附の一つでありますから懸々然から出掛ける人も多いので
分御座るのお方もありませう其處を通り脱けて大には今時の婦人感
の弊に罹り非常の時計をとり下つた仁川の納税河野君之助氏は其の
手に新築された安んな別荘は仁川の年々盛んに解放せられしつ
もの御縁がある筈です別荘は實に京に唯一の別荘云つて去
て差向のない立派な安んなものとして殊に南く竣工して去る
七年めし開園披露をして来るを鑑かした立派な所で眼下に仁川
標に勿論の内外

風景はパノラマの様

威風凛々です暖かい朝陽が景色に射してゆつくり午飯を戴き
内を拜見します十條本の赤日宮富化は今は盛りに咲き誇つて初
花王の映を實に見事なのであります互に賑ひ争ひ足る競ふ
大きな形が揺らぐわに突いて居る處は唐島を隔脱し孔雀が其
金色の羽を展げたものと同じや肉に陳泊中の騷擾も非難する形
なれば

(第一)

急遽旅行先から引返した市川氏
開かれんとする謎の扉

市川家に教はれたる兩人の姿態

結婚問題は靜子の捏造である。それは彼が認め、大學圖書館に所持して居た。記者が懇意を乞ふので、靜子は熱を帯びた口調で、次の方々に説明した。「私は毎から内地に旅行中でした。子が突然あんな死に方をせましたので、」

◆急に歸つて来たやうな顔です。静子さんが死んだのは、私として

市川家には如何なる關係があるか。假りに貞助と云ふ人を輩へたに當る人として考へて見ても、

市川家に教はれたる兩人の姿態

結婚問題は靜子の捏造である。

それは彼が認め、大學圖書館に所持して居た。記者が懇意を乞ふので、

靜子は熱を帯びた口調で、次の方々に説明した。「私は毎から内地に旅行中でした。子が突然あんな死に方をせましたので、」

◆急に歸つて来たやうな顔です。静子さんが死んだのは、私として

新聞紙上にも誤報が傳へられ、此の際彼女

[illegible]

て現はす云ふを移し、ものてす之等の樹木は
 意を持ちまして當日團員一同の御覧に入れ又
 而して高所のお方が天候に對して面白いな

天の降は如何して出るや云ふある時や云ふある時、
 時は順あるや大體御婦人達が御覧になつて居るを
 測候のお話がある筈でありまして彼天氣の信誠
 の付ても説明がありませう亦、此は亦い三角は何に
 測候の儀機の上に出るべき諸點を知つて居る
 能、判りませう測候を辭し四方の景色を眺つて

若葉の縁滴る西公園に

しのお方もありませう其處を通り脱けて次は全
 常の御寶詞を下さつた仁川の納蘭野

[illegible]

同脆九人も
あり家が貧乏だつた
この家は私の家より又つ
たのです。結婚間際
です。私は商売で多

[illegible]

薫風を衝いて

盛況を極めた乗馬大會
高等馬術は果して大陽采
可憐い少年騎手も出場
竹藪下士の障害物にあらう
竹藪三箇を障害物と爲り
樺木の森より米袋は飛べぬ馬が
かつた
障害物の隊長の曰くに
る「馬車競争後には充分疲勞
恢復しない」と思障が伸び切つ
居るから來者が澤山並んで
障害は下手です

残念ながら立派な思はれなかつた、更に番
騎兵の高等馬術はつたが片岡

兵が一列から順次八騎ずつ、八
の事乘から一列に解いて進めら
れた。白く立つ砂煙の中へ黄旗
の旗がはみき組んで解れてす
る旗状の姿伏さ、腰間の短刀、常
うに鳴り響いた、之が終る三餘
した金比羅廻りが一回玉運び

田幹理事長の挨拶があり四時半
を告げた上綱鑑賞会は流石に武
士や学生が多く無観客百名
された。

●梵鐘撞初式

感激に充ちた

較上あんなじやう人ひとなく
 較下あんなげ馬うまなし
 徒達たふだちが定さだめ
 宗僧侶そうそうりょ大冠だいかん

云つた言葉の通り觀察は精確に
られてしまつた。それから調子
逆の鐵馬があり、歩道の延びに素
に速い脚で走つてゐる大空の雲
に對して、零時卅分が二人天幕の下
から供へられ、麥酒が振られる。馬
會も悪く満ちた譯である

秘術盡して

龍虎鬪ふ

此の種々の儀式や讀經があ
らざるに、官統、處女、長
官が驚る文字、室内十羽、良馬
博士の懸賞、内十羽が恒
呪唱があつて意經を讀こむ
廣宣正法上座木下彌名
次に白梨束の寄進、高木夫人
次は餘水に漬けたうたふた
侶の言は餘水に漬けたうたふた
いて人々に一種の感銘を與へ
ば午後三時から本堂にて

紅口試合を擧行した少年の部が
 喜んで成年の部に入る。試合は漸

十

[illegible]

守る誓くしは格闘を結けたが其したち 荷建

[illegible]

東

九州山
福柳
大門岩
駒泉

西

[illegible]

附記 御
木浦郵便局で採用
全詳て萬天

木浦郵便局に於ては久しく電信機人員不足一忙を驅むる爲め補充に當るを省したる新設廣島の電信技術員養成所を得て廣島郵便局に移駐し目下木浦に滞在せる中に出でたりと云ふ婦人線電を讀み出されたるは去る十四日採用したるが女電信技術員は全駐の郵便局にて未だ之を見ず木浦局は其職欠なり

大田業

水
射
水
何久遠
天淵
常の
小半
字大

遠 鉾(押し切り) 大 賀
釋迦 獄(小手投げ) 射水 川 禪
本願寺に
遠一季

[illegible]

大 鑑品を出し 藤の川
 盗みて入
 れ悲観し
 爲なりミ

[illegible]

○預○若
 ○分○葵ケ
 ○大○戸平
 ○三○杉破
 入札購賞
 總督府
 魚紅

最新

日入江名
年號和英新
福永泰
定置價
許開角
由古久
不為隨

紅葉川は御西山に
に替り紅葉川は駒
みたり

我
甲見澤
放題 村上貞六
宅間題(婦人の友五
々々)英會館 森谷所

[illegible]

は十八日遊より廿日遊
經法要執行毎日午後
總

八時の二回朝服を脱ぎ、
口は宗祖様御入内
の儀に備へて午後十時より人
々の奏應。午よ剃式
と盤歌の興あはし
母を吞む。安土縣
萬曆二年地保の跡江戸
橋八町頭身が部
下し目殺を聞。苦悶
家人に尋見せり。應
本金では取止むるに
命でたる。然るに三

監部御認可
各地特



と効く

運動會　市內各町、熊
鹿、庄主能半藏、森氏の入
り、松島等の爲の十八日
に、賢忠館に於て運動會
が各種の饗宴をあり
し。

大華來らん　覽
か人等、若くは遊樂大會
の門にて興ひ出なる
より、運動會、演習、箱
庭、天狗、落書、など、種
々な遊びをする。

梅　はい
さくら

りん病　りん
から

身　からだ
體


見　み

購買入札
 紅毛小箱一萬三百個
 有蓋細小本日ノ本府官報に見
 九月十九日 朝鮮總督府
 入札購買總務府總務信局
 一重封皮甲外式付六點
 詳細五月十五日ノ本府官報に在り

最新刊
 改訂和英新辭典
 新訂英和辭典
 改訂和英新辭典
 新訂英和辭典
 改訂和英新辭典
 新訂英和辭典

大阪屋號
 新々日露會話
 大阪屋號
 新々日露會話

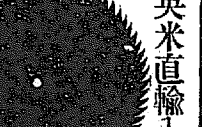
警務總監部御認可



各地特約希望ノ方ハ御照會ナセ

毒掃丸
 一切除去
 身體諸毒
 毒掃丸

英米直輸入



比無牢堅質品


大賣捌店

京坂本町堂子目
 山岸天佑堂
 木村眞三郎
 淵田平安堂
 村田 藥房
 佐々木西海堂

毒掃丸

一切除去
 身體諸毒
 毒掃丸

西洋かみそり



切剃 西洋かみそり

大賣捌店

京坂本町堂子目
 山岸天佑堂
 木村眞三郎
 淵田平安堂
 村田 藥房
 佐々木西海堂

毒掃丸

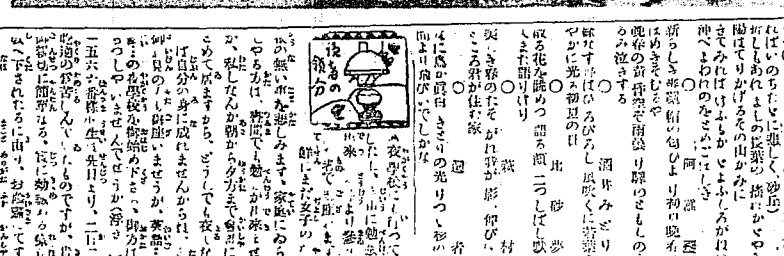
一切除去
 身體諸毒
 毒掃丸

第三十二回

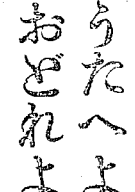
森島
山田
碧
久波
畫作

牛乳 青島 御用 電話一六〇九
「大抵では南方よりお届り申してあるが、」と、弟のスクールフレンドを以て通さした操子は、「宜しく入らつちやいました。弟が御足元になりました。お健勝でございます。生計今日は慶城の通りでござぬ處へ寄りましたから、牛乳箱を掛けて直に送るやうにしてやります。」
「それは互の顔を見合ひながら、運信物の力でおもひです。それだけやで、感謝するこの三月から、私の交換手を経営して、社員の勤怠を調査することになり、元來中央電報局の無線技師は補助なるもので、すして、認可」

有楽町に交換手養成所
を記し、三號から二十三號迄の女子を、大學町を定めて八人、その女子を、聖路公館等に散在させて、交換手の供出を請はんとせしめ居るやうである。

[illegible]

酒^し萄^ぶ葡^うるた兼^{かね}を養^や滋^じと味^{あじ}美^み



うたへよ。おこれよ。あそべよ。遊べ。遊ふにも身能力弱くては遊ぶことも出来ず、遊でも面白くもなんごもありません、赤玉は血を増し肉を肥やし老人病人も忽に勢づける力があります赤玉を飲むで身體を丈夫にし遊べよ遊べ、

つとめ
はげめ

つごめよ、はけめよ、勵はげめはたらけ、勵はげく事の出來ない様を要もとい人、元氣のない人、精力のない人は是非早く赤玉あかたまをは飲みなさいに、活氣きわきつき、威勢いせいつき、如何なる仕事にも骨が折れず、白く勵はげける様になります 勵はげめはたらけ、勵はげく

る優に藥百は杯一の夕朝



金銀香水

良
い
句
ひ
！

食 品 組 織

ハンカチ

切 子

[illegible]